

# 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立宮城小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ ・ Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：1年生（3名）、2年生（3名）、3年生（6名）、4年生（8名）、 5年生（4名）、6年生（10名） 参加保護者：25名 参加地域住民：0名（在籍児童の祖父）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（体育科） ② 行事名（ ） ③ その他（PTA教養講座） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ オリンピック・パラリンピック競技開催地区の県民・市民とし多様な文化を受け入れ、人々が互いの人権を尊重し合い、ともに力を合わせて生活する共生社会の実現を目指す。
5 取組内容	○ コロナウィルス感染症の感染防止のため、6月より通常の授業を再開したので、1学期中は校内推進委員会の設置や推進委員会での協議はできなかった。8月より、教頭がスポーツ振興課と連携を図り、事業計画の立案や講師の選定などについて進めてきた。 9月18日の職員会議において、オリ・パラ事業の説明と「ボッチャ体験教室」の実施について周知を図った。その後各学級でボッチャというスポーツについての説明や来年度に延期されたパラリンピックについての学習会（事前学習）を行った。 ○ 10月31日（土）にパラリンピックの正式競技である「ボッチャ」の体験学習を全校生が実施した。聞いたことはあってもやったことがないという児童がほとんどであった。 講師の先生のご指導をいただき、全員を6チームに分けて対戦形式で体験した。拍手や賞賛の声が上がるなどとても盛り上がり、終了後には、「楽しかった」という声がたくさん聞かれた。 また、ボッチャの用具を4セットお借りできたので、子どもが休み時間に積極的に体験することができた。保護者も学年活動やPTA教養講座でボッチャ教室を行いたいという意欲的な意見が出され、12月4日に実施した。 ○ 本校で進めているキャリアパスポートの作成時にボッチャ

	<p>体験教室から学んだことの振り返り（事後学習）を行った。          来年開催予定のパラリンピックでも興味を持って競技を観戦できることと思われる。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボッチャを体験したことによって、ボッチャそしてパラリンピックに対する興味・関心を高めることができた。競技の話題で、友達と話し合ったり、声かけをする姿が見られた。</li> <li>○ ボッチャの用具をお借りすることができ、休み時間を利用してボッチャを楽しむ児童が見られた。          また、友達と一緒に行動することの達成感が高まり、友情の深まりが見られた。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業開催日及び内容を保護者にも知らせ、参観者を募集した結果、たくさんの方に参加していただいた。</li> <li>○ 15分程度のボッチャの説明の時間を設け、スポーツは誰もが楽しめるように工夫してゲームの方法やルールを決めていることを学ばせていただいた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的や方法を明確にして全校生が参加できるように、教育課程に事前に組み入れると「何のために」「どのような方法で」「どんな成果を求めるか」がはっきりして実施の価値が生まれる。</li> <li>○ コロナの影響で学習発表会と抱き合わせの開催となり45分間しか時間が取れなかった。もっと十分にスポーツを楽しむ時間の設定が課題である。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パラリンピックに関する事業を道徳教育の一環として教育課程に位置づけ、社会の形成者として必要な資質の育成を図る。特に、本校の課題であるチャレンジ精神の育成や主体的・対話的な学習に活用していきたい。</li> <li>○ オリンピックの種目に関する体験学習を通して、運動の楽しさや異文化への理解を深め、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基盤作りの機会としたい。それにより、豊かなスポーツライフの実現に向けて適度に体を動かすことが体力を維持することにつながることで、体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっていることを理解させたい。</li> </ul>